

## 「ネギ汁」

北斗市立萩野小学校 教頭 長島 幹伸

焼き鳥をふと見ると、肉と肉の間に挟まれているネギ。一見脇役のように感じるが、口に入るとシャキシャキとした歯ごたえと中からジュワーっと出てくるネギ汁。その食感と何とも言えない独特なネギ汁の香りが肉の脂っこさを程よくかき消してくれる。

本校では、総合的な学習の時間にふるさと学習（いなっこ学習）に力を入れている。その中の一つに特産の農産物を地域の方と連携しながら栽培していく体験学習がある。

4年生は、JA新はこだて青年部の皆さんのご協力を頂きながらネギを栽培する。6月に学校の近くの圃場でネギを定植。曲がったネギにならないようまっすぐ等間隔に植えなければならない。児童は立派に育つよう願いを込めながらキラリと光る指で1本1本丁寧に植えていく。機械で植える様子もを見せていただき、機械の便利さを実感する。8月には管理作業。ネギの白い部分は太陽の光にあたるとできない。だから、成長してきたネギに土をかぶせ、白い部分を作るようにしなければならない。児童の額には作業の大変さを物語る汗がキラリ。10月は収穫。立派に育ったネギを抜いていく。途中で折れてしまっただけでは出荷ができなくなるため、慎重に、でも力いっぱいネギを引っ張り抜く。立派に育ったネギを片手に思わず白い歯がキラリ。ここでも機械でネギを抜く様子を見せてもらい、機械がない時代の農作業の大変さを痛感する。次に出荷調整作業。土から抜いたネギの根をハサミで切り取る。そして、皮をむく機械の音の大きさに怖がりながら恐る恐る皮をむき、ネギの長さをそろえて先端部分を切り落とす。その時、断面からキラリキラリとあふれ出て、したたり落ちてくる液体。これがネギ汁。まるで懸命に管理作業をした時の汗が断面からふき出ているようだった。そして翌日に行った販売体験。自分たちが栽培してきたネギを学校の近くにあるファーマーズマーケットで販売する。「いらっしやいませ」「おいしいネギですよ」と大きな声で叫んだがなかなか売れない。みんなで相談しかけ声を工夫することに。「お昼にいかがですか」「温かい味噌汁に最高ですよ」徐々にお客さんに手に取ってもらえるようになり、なんとか完売。その瞬間、子ども達の中から涙がキラリ。その直後に満面の笑みがキラリ。



今、晩ご飯で出てくる焼き鳥を見ると、肉の間に挟まれているネギがなんだかキラリと輝いて見えている。